

生産現場に直結した 試験研究の推進に向けて

・・・新たな組織体制でスタート・・・



(中田 場 長) 21世紀を目前に農業を取り巻く情勢は大きく変化しています。我が国農政の根幹をなす食料・農業・農村基本法(新農基法)が成立し、国民生活の安定向上、経済の特続可能な発展、農村振興や自然環境保全などの多面的機能の発揮等、農業に期待される役割は益々大きくなっています。

山口県農業試験場はこれらの情勢に即応し、より生産現場に直結した研究開発が効率的に推進されるよう平成11年度から新たな組織体制でスタートしました。

新体制では、研究体制を「作物別」から「技術分野別」の4部(育種開発・栽培技術・生産環境・病害虫)1室(企画情報)に再編し、研究課題の重点化や各作物に共通した新技術の

開発を行います。

特に、育種開発部ではこれまでの生物工学班を再編し、手法開発から育種まで一貫して付加価値の高い県オリジナル品種の育成を図ることとしています。また、栽培技術部では本県の多様な立地条件を活かし低コストと高品質化を基本に、省力化技術や女性・高齢者に適した軽作業化技術等の開発を行います。

また、病害虫防除所を「病害虫部」として統合し、人員を機動的・弾力的に活用し、病害虫の発生予察から環境にやさしい防除技術の開発までを推進します。

今後とも生産現場の技術開発ニーズに迅速に対応し、農家所得の向上を目指した研究の取り組みに一層努力してまいりますので、ご支援ご協力をお願い致します。



育成中のユリ新系統

山口型イチゴ高設栽培システム ラクラックシステム開発

農業試験場では、立ち姿勢でイチゴが栽培できるシステムを（株）サンポリと共同で開発しました。

このシステムは、自家施工が可能で、しかも価格が安く、イチゴを栽培しようとする人なら、どなたにでも導入できるのが特徴です。

また、部材のほとんどがポリエチレンのリサイクル品によって構成されており、全国に先駆けた「資源循環型栽培システム」です。

将来的には、粉殻主体の培地で3年間連用し、育苗から収穫までの一貫体系を確立することを目指しています。これまでより楽な作業で、儲けるイチゴ栽培へつなげていきたいと考えています。



従来の土耕栽培姿勢



高設栽培の作業姿勢



山口型高設栽培システム
(ラクラックシステム)



着果の状況

(栽培技術部園芸栽培グループ)

コンテナ利用による かんきつ貯蔵の省力化

（大島柑きつ試験場）

本県のかんきつの貯蔵は、一般的にコンテナに採収した果実をすのこの棚に移し、1～3ヶ月の貯蔵ののち、出荷時に再度コンテナに移しかえる方法が行われています。この方法では高所作業をともなうため非常に重労働で、特に高齢者にはきつい作業となっています。

これを解決するために、採収したコンテナのまま予措・貯蔵し出荷する「コンテナ貯蔵法」を開発しました。

- ① 深型プラスチックコンテナを利用した貯蔵では、容器内果実の積み重ね限界は「普通温州」で3～4果、「宮内伊予柑」では4～5果となります。
- ② 過湿による腐敗と浮皮をさけるために、隣のコンテナに接していない面が2面以上ある積み重ね方をします。
- ③ 換気扇やサーキュレータの設置により、庫内空気の循環を図ります。この貯蔵方法による省力効果は、棚貯蔵の作業時間の20%となります。



◀ コンテナの積み方

アマナツの大量包装 による貯蔵の省力化

（萩柑きつ試験場）

アマナツは貯蔵が長期間にわたるのでしなび等が発生します。それらの障害を防ぐために、現在、果実を1個ずつポリ袋に入れて（ポリ個装）コンテナで貯蔵していますが、多大な手間を要します。

そこで、コンテナの内側に資材を敷き、果実を入れて包み込む方法で、貯蔵の省力化に取り組みました。

7つの資材を試験し、有孔農ポリはしなび等の障害が少なく、ポリ個装とほぼ同等の効果がありました。この方法では、ポリ個装に比べコンテナに詰めるまでの時間が約3分の1に短縮でき、資材のコストは同等です。

しかし、有孔農ポリは5月下旬以降は効果が劣るので、今後更に改良が必要です。



▲ ポリ個装とコンテナ単位の大量包装の比較

水稲の病害虫の新たな 発生予察技術の開発

○イネいもち病の確率予測による長期予報

今年から、中山間地帯を対象に、毎年6月21日にコンピュータ予測による葉いもちの長期予報を発表しています。このような早い段階でその年の葉いもちの発生を確率で発表するのは、全国で初めての試みです。

*この予報は、本田期（主に6月）の粒剤施用の判断資料として活用できます。

例えば、長期予報が「少」の場合は全般的に粒剤を施用しなくても被害発生する可能性は低くなります。



○トビイロウンカの発生型予測

今年から、トビイロウンカの発生型の確率予測情報を発表しています。

これは、過去26年間の山口県発生予察ほ場（無防除）における発生型を4種類に類型化し、7月中旬と8月上旬、中旬に今年は何の発生型になる可能性が高いかを予測するものです。この情報により、おおまかな発生型と防除適期の予測が可能です。

発生型

- ・初期多発生型
- ・8月後半発生型
- ・9月発生型
- ・少発生型



病害虫防除所の業務は、主に病害虫部発生予察グループで行っています。今後も、地域に必要な病害虫情報を発信していきますのでよろしくお願いします。

なお、予測情報は、テレホンサービス（0839-27-4649）で入手できます。

【病害虫部発生予察グループ】

農林水産まつりのご案内

今年も、「21世紀のいのちはぐくむ 土・森・水 ～考えよう！くらしを支える農林水産業～」をテーマに10月30日（土）、31日（日）の両日農業試験場で開催されます。

農業試験場は、農業相談コーナーと試験研究展を行いますので是非ご来場ください。

○試験研究展

テーマ：人と自然の共存を目指して～すすめよう環境にやさしい農業～

内容：葉身窒素計を用いた水稲の施肥診断等の土づくり・施肥に関する農業技術
天敵、性フェロモン、拮抗微生物の利用など病害虫防除に関する農業技術